

## スギ人工林資源と素材生産の変化 —東北と九州の比較を通して—

○西 了吾・枚田 邦宏（鹿大農）

### はじめに

わが国の素材生産は 1964 年の木材の輸入全面自由化以降、低迷を続けてきた。特に減少しているのが広葉樹材やマツ類であった。2003 年以降スギ素材生産量が増加したことによってこのような傾向に変化が見られ始めた。その結果、全素材生産量に占めるスギ比率が拡大している。スギ素材生産量が増加している背景として、戦後の拡大造林によって造成された人工林資源が利用可能な時期に入り始めたこととともに、地域によって生産体制の整備が進んで拡大しているためである。その地域として注目されるのが東北と九州である。

本報告では、近年のスギ素材生産の変化をとらえるため、スギの二大地域である東北、九州に着目して、その構造的な違いを明らかにする第一歩として統計的な検討を行う。

### 方法

『木材需給報告書』のデータを中心に、スギ素材生産量の変化、素材価格等について東北と九州を比較しながら考察した。考察の時期は 1985 年以降とし、まず 1985 年以降の東北、九州のスギ素材生産の変化を概観した後、スギ素材生産量が増加に転じる 2003 年以降については需要先等について検討した。

### 結果と考察

1985 年からバブル経済が崩壊を始める 1991 年まで九州のスギ素材生産量は木造住宅の新設住宅着工戸数の増加とリンクする形で増加し、バブル経済が崩壊した後も 1995 年までスギ素材生産量は増加している。その後 2002 年まで木造住宅の新設住宅着工戸数が減少するのに合わせて九州のスギ素材生産量も減少している。一方の東北のスギ素材生産量は、1985 年から 1990 年代中頃まで横ばいで推移した後、2002 年まで減少傾向で推移している。その後、2003 年から木造住宅の新設住宅着工戸数が低調で推移する中で東北、九州ともにスギ素材生産量が増加している。この 2003 年以降の東北、九州のスギ素材生産量の増加は、東北では合板用スギ素材生産量の増加によって、九州では製材用スギ素材生産量の増加によってもたらされたものであった。

東北ではスギ素材の需要先として合板用に特化し、一方、九州では製材工場が規模拡大しながら、スギの素材生産が拡大している。このような違いがなぜ起こったかについては、今後は素材生産段階、流通段階、加工段階それぞれの段階での構造的な分析が必要である。

（連絡先：西 了吾 [bamboo\\_bamboo24@yahoo.co.jp](mailto:bamboo_bamboo24@yahoo.co.jp)）